



# 平成29年 町長施政方針

(その1)

3月2日、平成29年第1回定例会の開会にあたり、勝田町長が施政方針演説を行いました。(内容を一部抜粋して掲載しています。)

## ― 予算の概要

予算は地方創生・人口減少対策など喫緊の課題に対し、迅速かつ適切に対応することを念頭におき、編成しています。

平成29年度の当初予算では、人口減少問題、公共施設の老朽化などの山積する諸課題に対応するため、国・県の補助事業等を活用し、施策を推進します。

また、生活インフラ整備のほか、雇用・定住対策、産業振興、子育て支援、福祉・医療・教育の充実など、町の振興、町民生活向上に資する事業に対し、重点的に予算を配分しました。

この結果、来年度当初予算の総額は144億4000万円、今年度当初予算に比較して3.0%、4億4000万円の減額となりました。

## ― 社会基盤・生活基盤整備

生活道路の整備については、三沢山根線、福頼線等の継続実施する15路線を、引き続き改良整備の進捗を図ることとします。

また、道路や橋などのインフラの老朽化対策については、引き続き、点検、修繕事業による長寿命

化を進めます。

そのほか、公園事業では平成30年に三成公園において全日本中学生ホッケー選手権大会が開催されることから、老朽化が進んでいる人工芝の全面張替えとともに散水設備などの改修を行います。

県事業につきましては、現在整備中の国道・県道や河川等の各事業について、早期完成に向けた要望を継続します。

次に、水道事業についてです。使用者の皆様へ新たな手続きをお願いすることはありませんが、来年度から、15の簡易水道施設を統合した奥出雲町水道事業の運営を開始します。

この統合に伴い、会計方式が企業会計に変わるため、貸借対照表及び損益計算書を活用した経営状況の正確な把握が可能となり、経営の効率化や職員の経営意識の向上に繋がるものと考えています。

今後も、町民の安全安心な生活環境の維持・向上を図るため、経営状況に留意しながら、施設の老朽化対策についても順次進めます。下水道事業についても、来年度は、合併処理浄化槽の設置を25基計画しているほか、施設の長寿命化を図るため公共下水道施設のストックマネジメント計画策定、農業集落排水施設の機能保全対策調査を

次に、環境衛生についてです。仁多可燃物処理センターは、施設の改良から14年が経過し、老朽化が進んでいることから、ごみ処理の効率化や環境負荷低減を図るため、今後の可燃ごみ処理施設の整備方針等について、専門家を交えた検討を進めます。

農村整備事業については、農地・農業水利施設の整備による経営規模の拡大等を進めるため、「農業基盤整備促進事業」を継続実施するほか、荒廃農地の復旧工事を助成する「荒廃農地等利活用促進交付金」を新たに予算化しました。

そのほか、来年度の携帯電話等エリア整備事業については、阿井地区の奥湯谷地内へ基地局を新設する予定であり、引き続き、携帯電話の不感地域の解消に取り組めます。

## ― 産業振興

昨年8月、株式会社かばはうす様と「奥出雲の魅力を伝える連携協定」を締結し、かばはうす様による「奥出雲」をテーマにした新店舗が、東京都有楽町で3月16日にオープン運びとなりました。

この店舗では、奥出雲の食材を使った料理、地酒が提供されるこ

とから、奥出雲の物産コーナー等を設置し、首都圏における本町の特産品、観光等の地域情報の発信、PRの拠点として活用します。

次に、農林業の振興についてです。米価の低迷、TPPの先行き不安など、農林業を取り巻く環境は厳しさを増していますが、町としては引き続き、「人・農地プラン」に基づく認定農業者への支援や中山間地域等直接支払交付金事業などを推進します。

また、本町の平成29年産の主食用米水稻配分面積は、目標面積を若干下回る、約1400haの作付面積が確保できる見込みですが、更に追加配分を要望します。

なお、来年2月には「第9回仁多米振興大会」を開催する予定であり、引き続き、県・J・A・生産者と連携し、品質の確保や食味の向上を図るための取り組みを進めていく考えです。

そのほか、仁多郡カントリエレーベーターの集荷・乾燥調整・貯蔵システムの改修を行い、円滑な荷受け体制の確保に努めます。

次に、畜産振興についてです。本年9月に宮城県仙台市で開催される「第11回全国和牛能力共進会」まで、残すところ6ヶ月となりました。

既に第5区繁殖雌牛群の出場は

決定していますが、その他の出品区についても、本年6月に開催される県最終選抜会での県代表出場枠の獲得を目指します。

引き続き、J・Aなどの関係機関と連携し、集荷指導体制や飼養管理体制の支援強化などの出品対策に取り組みとともに、鳥上地区に改修整備した横田第2繁殖育成センターの活用などにより、増頭対策や和牛改良を推進します。



第5区繁殖雌牛群の県代表に選出

特産振興については、国営開発農地を中心に栽培されている奥出雲有機エゴマを、来年度から新た



公式試合が行われる三成公園ホッケー場

実施します。

また、全国に先駆けた取り組みである、雲南広域連合による「下水道事業等の広域化・共同化事業」は、来年度、下水汚泥の共同処理施設が完成する予定です。

この施設の運用開始により、公共下水道をはじめ浄化槽、農業集落排水施設、し尿などの生活排水処理の効率化が図られるものと期待しています。

なお、現在の住環境リフォーム助成制度については、来年度からさらに3年間延長し、接続率の向上を図ることにしました。

に、企業版ふるさと応援寄附金を活用した機械整備、販売促進等による生産振興を図る考えです。

また、引き続き、水田転作によるエゴマ栽培農家へ10アル当たり2万円を助成するほか、横田小ソバ等の生産農家に対し、乾燥調整及び検査手数料の助成など、作付奨励事業を実施します。

林業の振興については、引き続き、山林地籍調査事業や町行分収造林等を推進するとともに、新たに林地台帳整備に取り組み、「森林資源を活かした循環型社会」の実現を目指します。

また、第71回全国植樹祭が、平成32年春に島根県で開催される予定であることから、雲南市と合同で「さくらおろち湖周辺」への開催地誘致を、県に強く要望します。

## ― 観光振興

本年5月には、錦織良成監督による映画、「たたら侍」がいよいよ公開されます。

昨年4月に日本遺産として登録された「出雲國たたら風土記」とともに、「たたら製鉄」を全国へ情報発信する良い機会であり、映画のPR活動等支援を続けたいと考えております。

また、平成30年には、観光誘客